

『日本歯科評論』2000年12月号（第698号）別刷

MONTHLY
THE NIPPON
Dental Review

日本歯科評論

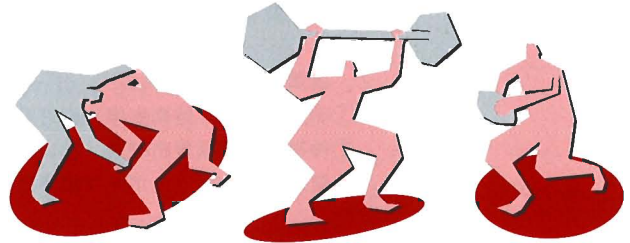
No. 698

12

マウスガードに対するアンケート調査

さか い つよし
坂井 剛

愛知県歯科医師会専務理事 SHP 協議会会長



はじめに

現在、愛知県歯科医師会ではマウスガードの普及活動を進めているが、この活動を始めた理由として、2つのことが挙げられる。

1つには、平成元年より始めた8020運動を進める中で健康な歯をスポーツ外傷によって失う事例が多いことが判明し、それも成長期にある児童・生徒に多発することから、生涯の健康づくりを目指す8020運動の趣旨からいっても、これに真剣に対応することがわれわれの使命である、と認識したことである。2つ目は、将来的にマウスガードの需要が増大すると考えられることから、多くの会員が製作できるように研修会を開催し、受け皿づくりを急ぐ必要があると判断したことである。

現在、本会では8020運動を柱として、“口腔と全身”に関わるさまざまな研究開発を行い、その成

果を歯周病と骨粗鬆症や糖尿病との関連に関するパンフレットなどにして、県民や会員に情報提供をしている。その一端としてスポーツ歯科医学を考え、平成10年にSHP (Dental Conference of Sports and Health Promotion: スポーツ・健康づくり歯学協議会) を立ち上げ、マウスガードの製作研修会を重点的に行ってきた(表1)。

今後も、さらにこの普及活動を強力に展開していく予定であるが、今回、マウスガードに対する需要の動向と会員の認識、将来的な供給体制のあり方を探るべく、愛知県歯科医師会の全会員にアンケート調査を実施したので報告したい。

1. アンケート調査とその結果

平成12年5月16日、愛知県歯科医師会の全会員3,441名に対して、図1のようなアンケート調査を行った。回答数は1,184名、回答率は34.4%であっ

表1 SHP協議会の事業

1. 研究支援（3論文）
 - ①愛知学院（第3補綴）伊藤 裕教授
「高校女子ハンドボール部員のMG意識調査」
 - ②愛知学院（矯正学）後藤滋巳教授
「MGの普及と口腔外傷防止対策と教育啓蒙」
 - ③朝日大学（臨床研究所）山内六男教授
「既製MGとカスタムメイドMGの装着感の違い」
2. 講演会（3講演）
 - ①明海大学（口腔衛生学）安井利一教授
 - ②神奈川県横須賀市開業 杉山義祥先生
 - ③東京歯科大学（スポーツ歯学研究室）石上恵一助教授
3. MG研修会（製作実習）
 - ①平成11年4月～10月：10回開催

た。

アンケート調査の結果を図2に示すが、それらをまとめると、次のことがいえる。

- ① これまでにもマウスガードを希望して来院する人は結構多かった。これからも、「健康日本21」の発表などにより、さらに健康指向が高まる中、スポーツ人口の増加とともにマウスガードの需要は拡大する。
- ② 急速な需要の拡大に備えて、普及活動と同時に研修事業を活発に行い、受け皿を拡大していく必要がある。
- ③ 会員は、本会の対応を強く望んでいる。日本歯科医師会もまた、会員の要請に十分応える必要がある。
- ④ 関係学会は臨床で役立つ情報の提供など、支援体制を急ぐ必要がある。

II. 今後への提言

以上、アンケート調査の結果をご紹介したが、マウスガードの普及を目指す上では、歯科医師自身がスポーツ歯科医学に対する理解を呼びかけ、さらにこれを取り巻く社会的な環境にも、さまざまな働きかけを行うことが必要となる。今後、より一層マウスガードの普及活動を推進するために、われわれは以下のように提言したい。

- ① マウスガードは使用法を誤ればかえって有害となるものであり、専門の歯科医師が扱うべきものとして医療用具の認可を急ぎ、マウスガードが暴具とならないように法的整備をする。
- ② 児童・生徒が安全に安心してスポーツが行

アンケート

該当する答えを○で囲んで下さい。

1. 先生の医院では、これまでにマウスガードの作製を希望する患者さんが来院したことがありますか。 ある ・ ない
- 1) あると答えられた方にお尋ねします。
- (1)その時、あなたはマウスガードを作製しましたか はい ・ いいえ
- (2)マウスガードを作製したのは、どなたですか 先生 ・ 技工士
- (3)その後、マウスガードの作製件数はどれくらいですか 約_____件
- 2) ないと答えられた方を含めて全員にお尋ねします。
- (1)今後、マウスガードの希望者が来院した時、作製する気はありますか ある ・ ない
- (2)その時、あなたは自分で作製されますか はい ・ いいえ
- (3)自分で作製する場合、先生は研修を受ける必要があると思いますか ある ・ ない
2. 現在、県歯がSHP（スポーツ・健康づくり歯学協議会）を組織してマウスガード普及活動をしているのを知っていますか。 知っている ・ 知らない
- 知っていると答えられた方にお尋ねします。
- (1)先生は、現在SHPの会員になっていますか はい ・ いいえ
- (2)SHPの研修会を受けた事がありますか はい ・ いいえ
3. 今後、SHPの会員となって（現会員も含む）マウスガード普及のネットワークに参加する気はありますか。 はい ・ ない
- 1) あると答えられた方にお尋ねします。
- (1)今後、会員名簿を作って関係方面に配布する予定ですが先生の医院の情報提供をしてもよろしいですか よい ・ よくない
- よいと答えられた方は、□内の記入をお願いします。（ゴム印で結構です）

〒 診療所住所 医療機関名および氏名 電話およびFAX番号	
--	--

- (2)情報提供を了承いただいた方で、まだ未入会の先生にはSHP入会申込書をお送りしますがよろしいですか よい ・ よくない

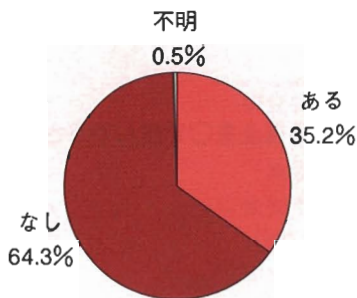
郵送先住所：

氏 名：

ご協力ありがとうございました。

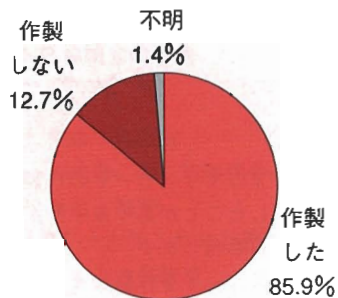
図1 アンケート用紙。

【1.希望患者の診察】



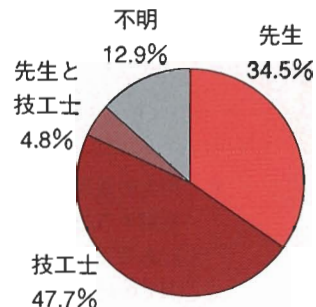
マウスガードを希望する患者を診察したことのある会員の割合は35.2%で、約1/3以上であった。

【2.作製の有無】

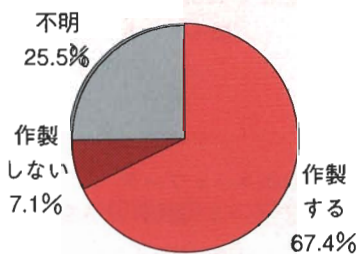


その中で、作製した件数は417件中358件と85.9%に上るが、53件12.7%は現状では作製をしていない。また、作製者は技工士が47.7%と多く、先生自身が34.5%であった。

【3.作製者】

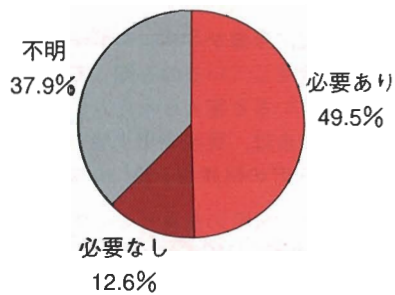


【4.今後の作製】



今後の作製の方向性では、作製するが67.4%と高い数値を示し、半分以上が先生自身での作製を考えているようだった。

【5.研修の必要性】



研修の必要性では、半数くらいが必要性を認めており、必要なしが12.6%にとどまった。

図2 アンケート調査結果。

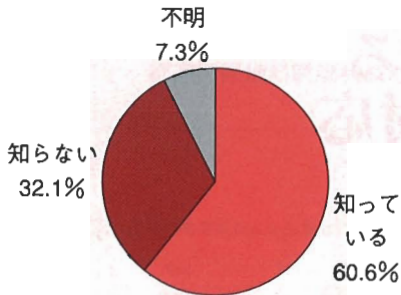
えるように低価格（3,000～5,000円）で提供する。そのため、学校安全会の見舞金が支給できるように文部省へ働きかける。

- ③ 日本歯科医師会とスポーツ歯科医学会は協力し、スポーツデンティスト（認定医）の早期実現に努める。

おわりに

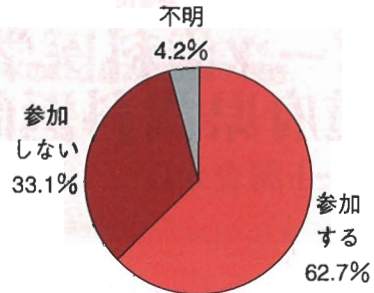
スポーツドクターの認定制度は、平成元年に始まったと聞いている。歯科界においても協力して早急に対応していく必要があると考え、SHP協議会を立ち上げ、全国に呼びかけたが、現状は各県でSHP協議会の設立が進み、急速に具体的な対

【6.SHPの認知度】



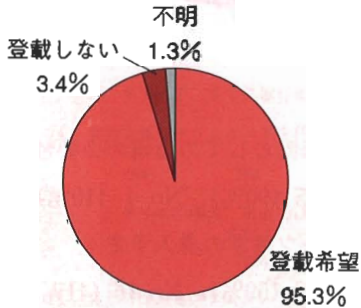
愛知県では、平成10年から略称SHP協議会を設立してマウスガードに関する普及活動を行ってきたが、その知名度は60.6%であった。

【7.SHPの参加希望】



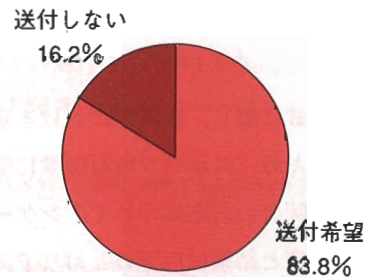
また、SHP協議会への参加希望が62.7%と多く、実際に体系化された学問および研修会が必要と考える人が増えてきている。

【8.名簿の登載】



SHP協議会ではマウスガードが作製できる歯科医院の名簿作りのほか、関係団体やスポーツ用品店などへの働きかけも考えている。名簿掲載の有無の欄では、実に95.3%が名簿掲載を希望していた。

【9.入会申込書の送付】



SHP協議会への入会申込書の送付希望も高く83.8%であった。以上の結果は、何か新しい歯科の方向性を表しているようであり、今後も継続的な取り組みの必要性を示唆するものであった。

応が広がっている。

しかし、SHPが行うマウスガードの製作研修会は初歩的なものであり、今後は東京歯科大学や各大学研究室が行う研修会をアドバンスコースとし、スポーツ歯科医としての位置づけをすること、さらにスポーツ歯科医学会が認定するスポーツデンティストへと進化させることが望まれる。

いずれにしても、スポーツ歯科医学が21世紀の

国民歯科医療の重要な一分野になることは間違いなく、今後は、8020財団が行う国民運動としての8020運動にも組み入れられることが期待される。

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-5-18
愛知県歯科医師会